

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ゆうゆう理念をホーム内に表示している。地域との関わりを出来る限り続けられる様、御家族にも協力依頼し、希望される限り慣れ親しんだ散髪屋さんにお連れしたり、又地域行事の参加に心掛けている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念を理解し、その意味や介護のあり方をより効果が得られるよう目標をあらわし実践に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居時や面会時などにご家族に話している。又、地域の人々には法人主催の敬老会、地域の文化祭、運営推進会議などに話をする様に心掛けている。		運営推進会議や広報誌の中で盛り込んでいける様にしたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の時などに挨拶を交わしている。構造的に病院の3階にあるが受診時などに入居者の友人、知人の面会がある。		入居者の受診時には、周囲の方々へ足を運んで頂けるよう挨拶や声掛けを継続的に行えるよう心掛けていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭や法人主催の敬老会には毎年地域の方に参加して頂いている。		病院受診時の待合室が近隣住人との交流の場となっており、今後もこのような機会を大切にしていき、入居者と散歩の折には、地域内の空き缶拾いを行うよう行政区長と検討し準備をすすめている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で認知症、感染症などテ-マを決めて勉強会を行っている。		参加者の要望も含め今後も分かり易く馴染み易いテ-マを検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	内容等をスタッフミーティングにて説明し、改善事項などを検討し取り組んでいる。又、外部評価記入の際、再度、確認を行っている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者には必ず質問や要望内容を確認し、それを基に改善する内容には取り組んでいる。		参加者へ分かり易い言葉で伝え、小さな事でも意見が言えるような雰囲気作りを心掛けていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	電話や必要に応じて窓口訪問し、相談や問い合わせなどを行っている。		保険者へ出向き相談や指導、助言の仰げる関係作りを心掛けたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	資料をファイルし、見やすくしたり、運営推進会議で勉強会を行う等して取り組んでいる。又、社会資源の利用が必要で詳しいアドバイスが必要な方にはソーシャルワーカー等にも相談し解決できるように取り組んでいる。		定期的に運営推進会議での勉強会を盛り込んでいきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフによる虐待行為は相互監視を重視し、入居者家族による入居者に対する虐待行為には、必要に応じて関係機関(主治医、ワーカー、スタッフ)と連携し、情報提供(DVの相談機関)と行政専門医への相談を促す。		介護事業者協議会によるセミナーにて勉強会に参加している。又スタッフ間でも相互監視を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書を読み上げ説明し、随時、不安や疑問点の確認を行い理解や納得を図っている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者とスタッフ間で話したことを会議などで報告し、改善の必要があるか検討を行っている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>広報誌にてお知らせしたり運営推進会議の中でも報告出来る事は行っている。個人的な事なども面会時や電話等で行い、利用者の近況を手紙にし、毎月請求書と一緒に同封するようにしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱、苦情担当責任者を決め、掲示を行い面会時には口頭での確認を行い意見、苦情が出た場合はスタッフ間で会議し必要であれば上司に報告し改善を図っている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>スタッフミーティング時や日頃の業務中でもスタッフの意見を聞き話し合いをしている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>調整できる所は状況に合わせて行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>担当替えのある場合は、入居者、家族の方へ引継ぎ説明を行い、広報誌にて報告を行っている。又、手紙に担当スタッフの氏名を記入するようにしている。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>グループホームに適した人材であり、男女の区別や年齢に関係なく意欲的に取り組もうとする姿勢を採用対象とし、スタッフについては得意分野で役割を果たしてもらうなど個々の能力を生かせるよう努めている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>ホーム内の論理や認知症高齢者の人権について資料を貼ったり、ミーティングでも啓発活動に取り組んでいる。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修が行われる際、誰でも参加出来るよう配慮されている。又同じスタッフばかりが参加するのではなくみんなが学べるような機会が確保されている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>協議会のスタッフセミナーに参加したりグループホーム部会等にも参加している。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員同士気兼ねなく話し合えるような雰囲気作りに心掛け、ミーティング等を行っている。</p>		<p>今後もストレス軽減に向け、意見や心情が汲み取れるよう努力していきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員それぞれの得意分野がいかせるような環境を意識し、向上心を持って働けるよう努めている。		今後も個々の能力が発揮し易く、向上心を持って頂けるよう努力していきたい。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	日常の会話や特に初めて利用される方には、より一層のコミュニケーションを図り傾聴している。		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居相談時は困っている事や不安な事などアセスメントし、対応策を家族と一緒に考えている。又入居後の面会時には気軽に話せる雰囲気作りに努めている。		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	相談の内容により職員間で改善策を講じたり、必要に応じ他のサービスの紹介等も行っている。		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	新しい事を開始する時はもちろん変更などある場合でも、家族と相談しながら十分納得して頂いてから徐々に行なうよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	常に入居者の方からたくさんの事を学び、そのことを生かしながら支えあえる関係を築けるよう努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の方とは十分に話し合える機会を作り、意見交換を行ないながら共に支えていく関係を築けるよう努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の日々の様子や面会時、必要時には電話で伝えたり、広報誌などで伝えるようにしている。又、毎月の請求時には、近況を手紙に記している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや散歩に行く際に馴染みの場所付近を通ったり、又、知り合いの方と話せる機会を作れるよう心掛けている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	毎朝のバイタル時には、全員ホールに出て来て頂き、水分補給やラジオ体操、歌をうたう等、顔を合わせる時間を作り、その他も出来るだけ孤立することのないように他の入居者の方と関わる機会を増やせるよう努めている。		認知症の進行により、心身機能の低下も見られる為、全員が参加できる事をスタッフ全員で検討していきたい。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族の方から相談をされた時などは関係機関のもと連携を取り、支援を行なえるよう心掛けている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや希望、本人の意向を把握出来るよう努めているがどうしても困難な場合は、少しでも近づけるよう検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ほとんど家族の方からの情報が大半である。意思疎通困難な方もおられ、把握出来ないこともある。		日々の会話や生活の中で模索していきたい。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員間の連携、情報を共有しアセスメント、介護記録を利用し現状把握を行なっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、本人本位で考えられるよう家族や主治医、関係機関の意見を収集し計画作成を行っている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリング、アセスメントを実行し、必要時には関係機関への情報収集も行い計画作成を行なっている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をよく観察し、気づいたことなど介護記録に残し、職員間での情報も共有している。又、それを基に介護計画の見直し等に生かせる様心掛けている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個人個人のペースに合わせ、起床、入浴、食事などその他の生活のリズムに合うよう心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	意見交換などを行う場所、地域の方々との交流も含め二ヶ月に1回運営推進会議を行っている。地域の文化祭に出品と参加させて頂き、又行事などを行う際はボランティアの方に来て頂くなど呼びかけている。		ボランティアの呼びかけや散歩を兼ねてのゴミ拾い(空き缶拾い)を行政区長を交え準備中。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族の希望に応じ病院のソーシャルワーカーを紹介したり、居宅介護を通じ他入居施設の説明やパンフレットによる紹介など又グループホーム部会での情報、連携も行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在予防支援の方が居られない為、具体的な実施は行っていない。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にはかかりつけ医の情報提供をして頂き、可能であれば家族送迎でのかかりつけ医への受診依頼や、併せて、希望する医療が受けられる等の説明を行っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて、協力医の受診や相談は行っている。又家族が希望される場合や主治医が専門医の受診と判断した場合は、治療を受けられるよう心掛けている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日常的に挨拶を交わすなど、法人内に病院が併設しており、看護職員も入居者のことを良く知っており安心につながっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>同法人内に病院が併設しており、主治医、看護師などが病状についての情報の連携も取り易い。病棟に会いに行ったり、早期退院に向けて意向を確認し、連携に心掛けている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居の際より説明し、看取りが必要な場合は、再度、看取りの同意を頂いた上で、主治医と蜜に連携を取りながら、主治医、看護師、家族、スタッフ間で話し合い、方針の共有ができるよう心掛けている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>主治医よりも常にリスクの説明を行って頂き、医療か介護かの判断を家族に委ね、希望があればグループホームで出来ること、出来ないことを説明し、終末期の選択確認を行えるよう心掛けている。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居される際は出来るだけ使用していた物を持参して頂き、不安時には家族へ来居依頼を行うなど入居前との変化があまりないように努めている。他、入居施設に行かれる際には、必要な情報の提供を行っている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入室の際は声掛けをしプライバシーの確保に心掛け、その人に合わせた言葉かけや対応を行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	散歩等外出の希望があれば計画をし、又買い物は代行をしている。面会時は本人の希望や好み、家族の希望を伺うように心掛け、家族と共に相談し支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れの中で優先順位を決め、後で出来る事は後回しにし、ペースや希望に合わせるように努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分で更衣できる方には、出来るだけ自分で着衣を選んでいただくよう心掛け、又着ている服を褒めるような声掛けを行っている。散髪は希望に応じ、対応を行っている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食を取り入れたり、誕生日には個々の希望に合わせたメニューにしている。食事形態もその人に合わせた調理をしている。又、配膳、下膳、調理の下準備など出来る事を手伝って頂いている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙に関しては健康と安全上の問題で禁煙としているが、コーヒーやお菓子等の嗜好品については、本人が管理できない場合は預かり、希望時には、お出しし楽しんで頂いている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックシートを使用し個々の排泄パターンを把握するように努めている。状態によって布パンツ・リハビリパンツ・尿とりパットを併用し、気持ちよく排泄できるよう援助を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の体調や時間帯の希望に合わせ、入浴の介助や援助を行っている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、掃除の手伝いをしていたり、体操をしたりと、適度に運動をして頂き、午前、午後に水分補給(間食)などの時間を設けたり、夜間には着衣や気温に配慮し安眠できるように援助を行っている。		
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々に合わせて、モップがけや洗濯物たたみ、メニュー書き、配膳、調理の下準備、包布交換などの役割をもって手伝って頂くよう援助を行っている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る方には本人にお金を持って頂き、散髪等の際にご自身でお支払いして頂いている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩にお連れしたり、買い物に同行して頂いたりしている。		高齢化や身体機能低下傾向にあるが、天候や体調に配慮しながら、少しでも散歩や外出が行えるよう努めていきたい。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事計画をたて、花見やドライブ等を行っている。		継続的に家族の協力を呼びかけ行事の工夫、検討をしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたり、手紙(正月に書かれる方はあり)のやり取りをされる方はおられないが、電話が掛かってきた時に、本人と替わり、話をして頂くよう援助を行っている。		ご本人の希望を尋ねながら、電話や手紙のやり取りが行えるよう努めていきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	親族や友人、病院受診された近隣の方の面会があり、面会時にはスタッフも近況をお話する等の声掛けや、お茶出し等を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則禁止にしているが、止むを得ない場合(一時性・切迫性・非代替性)は家族に説明し同意を得るようにしている。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。夜勤者が一人になる時間帯は家族の同意を得た上で、玄関・非常口の鍵をかけている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々の行動を観察・見守り夜間に於いては巡視を行い、状況に応じて声掛けや介助を行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	本人と家族、管理者、スタッフと話し合い、相談した上で、注意の必要な物品は預かるようにし、随時、環境整備を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的に防災訓練を実施し、必要に応じ、マニュアルを作成、対応し、事故発生時にはインシデント・アクシデントレポートを書き、改善策の検討をしている。		
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署主催の研修に参加する事はある。又、緊急時対応のマニュアルはあるがG.H内での定期的な訓練は行っていない。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	71に同じ。地域の方々にも協力を得られるよう呼びかけている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	なるべく行動の規制をしないように心掛けながら随時、家族へ入居者の状態に合わせて起こりうるリスクの説明を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	状態に変調がある場合は、速やかに併設の病院に報告し、必要に応じ受診している。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間での情報伝達を確実にし、服薬の変更があった場合には記録に残している。内服の一覧表を薬箱に用意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日々の水分補給や散歩などを心掛け、便秘がちな方には腹部マッサージや、下剤服用もある。排便できない場合には、主治医への指示を仰ぎ坐薬。病院受診にて摘便を行う等、排便を促している。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後には必ず声を掛け、歯磨きを行って頂き、必要に応じ、口腔ケアや義歯洗浄の介助をしている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのバイタルや排泄チェック表を参考にし、季節や個々の状態に応じて、食事量や水分量の配慮を行っている。月1回の体重測定をし必要に応じて医療との連携を図りながら支援を行っている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	対応マニュアルを作り、実行し、感染症に関する研修を行っている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、包丁、ふきん類は1日1回ハイター消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム専用の出入り口が建物裏に位置している為、正面から見た感じでは分かりにくい為、看板を立てたり、折に触れて説明する等して分かり易いように工夫に努めている。		今後も分かり易い表示が行えるよう検討していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて小物や花などを置き、音楽を流すなど入居者の目線に合わせて家庭的な雰囲気を中心掛けている。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士で気軽に話ができるようにテーブルや椅子を利用し居場所の確保を行い、又、一人ひとりが自由にTV視聴できるようにしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	TV、ラジオ、仏壇、編み物、小物等、本人の使い慣れた物を自由に持ち込んで頂いている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	天候や一人ひとりの体調に配慮し、換気や室温調節を定期的に行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の扉は軽くて動き易い木材を使用し、流し台・トイレは低くし、居室の入り口や浴室には滑り止めをし、安全かつ自立した生活が送れるように配慮している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の出来そうなことは見守り、必要に応じ一緒に行く、出来ない所を介助する等している。入居者の目線に合わせて居室前にネームプレートを設置している。		
89	建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日は入居者と共に散歩に出掛けたり、ベランダにて日光浴を楽しむようにしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

同一法人内に、病院が併設し、協力医療機関でもある。又、病院の3階部分にグループホームがある事もあり、医療に於いては、主治医や病棟、PT・OT等との連携が図り易く、利用者や家族の方より「安心して過ごせる」という言葉を頂き喜んで頂いている。又、スタッフ自身も医療機関がある事で安心して介護が行え、認知症であってもゆったりとその人らしく楽しい毎日を送って頂き、色々な事を共有しながら処遇が行えるように心掛けたい。